

協同組合運動の再興

世界初の協同組合法の制定、1850～1890 年代のイギリス協同組合運動



写真: J. S. ミル (協同組合法の制定に協力)
(c) National Portrait Gallery, London

基督教友愛新聞

発行所:
白十字キリスト教
社会主義研究会
(http://www.ichtus.net/css)
発行人:
倉井 香茅哉 (独立系研究者)

今回は、「産業および節約組合法 (the Industrial and Provident Societies Act)」の制定以後、一九世紀末までの協同組合運動の軌跡を概説したい。キリスト教社会主義運動の指導者である E. V. ニールと J. M. ラドロールは、中央協同組合代理店 (CCA) をめぐって思想・運動的に対立したものの、共に協同組合運動の発展を願い、すべての協同組合人を「同胞」とみなして、運動の発展を阻害する法律的要因を取り除こうとした。世界最初の協同組合法である「産業および節約組合法」の実現は、その一つの成果であった。それ以

前の協同組合は、一七九三年に制定された「友愛組合法 (the Friendly Societies Act)」に準拠していた。ニールやラドロールたちは、一八三四年と一八四六年に修正された友愛組合法の適用範囲を拡大し、同法を労働者生産協同組合と消費者協同組合の生産活動に適用させることを求めた。彼らの意向をふまえ、一八五二年、当時国会議員であったジョン・スチュアート・ミルの協力を得て、スラニー委員会の下で「産業および節約組合法」が成立した。同法は、一八六二年と一八六七年の修正を経て、協同組合卸売連合会 (CWS) 設立の法律的根拠となった。一八六三年に設立された。翌年から事業を開始した CWS は、消費者協同組合運動に飛躍的な経済的發展をもたらした。

産業パートナーシップ、労働アンジェーションから国際協同組合同盟 (ICA) 設立までの軌跡

一方、一八五四年にキリスト教社会主義運動が終焉して以後、労働者生産協同組合運動は、一八六〇年代まで大きな前進を見せなかった。消費者協同組合陣営と労働者生産協同組合陣営の発展の相違は、後者が協同組合運動の内部で主張してきた「労働に応じた利潤分配」方式に代わって、前者の利潤分配方式である「購買 (利用) 高配当」を原則とすべきとの要求を一層強力にさせ、両陣営の対立を深刻化させた。とはいえ、一八六九年に第一回イギリス協同組合大会の開催、一八七一年に協同組合運動の機

論説 + 連合は労働者の代表か

連合が批判してきた「残業代ゼロ法案」
執行部の主導で条件付き容認→撤回。
安倍政権下の労働問題はどうか?!

今年七月、日本労働組合総連合会 (以下、連合) は、高収入の専門職を労働時間規制の対象から外す「高度プロフェッショナル制度 (高プロ)」を盛り込んだ労働基準法改正案の容認を求めた。長年、連合が批判してきた「残業代ゼロ法案」に他ならないが、執行部の一部の主導により、条件付き容認の方向に舵が切られた。だが、二二日の中央執行委員会では、組織内の了解を取り付けられなかった。突然の方針転換

労働者生産協同組合運動の再構築に奮闘した。グリーニングの提唱した「産業パートナーシップ」は、「労働者への利潤分配」＝「労働配当」を原則とする企業の経営管理の方法であり、その基礎はオーウェン派社会主義の労働価値にあったが、同時に、彼はニールを通じて、「労働に対する利潤分配」に基づく「労働の解放」というキリスト教社会主義の思想を導入した。一八六七年にマンチェスターで開催された産業パートナーシップ協議会では、実践家、オーウェン主義者、モリス主義

天帳院日記

都内の介護施設で、「文学研究」と介護職の二つがどう結びつくのか、申し訳ないけれど見えてこない」という率直な意見をいただいた。無理もないことだ。実のところ、社会福祉の分野での奉職を決断したのは、専ら個人的な体験に依る。高校時代、精神医療には興味を示したが、社会福祉の分野を志望したことはなかった。ただ、二年次に車イスの同級生と出会った。今になって、もっと積極的に学び合うことができたのでは、と反省している。もう一つ思いだすのは、大学院の受験勉強の最中に亡くなった母方の祖父のことだ。入試前だからと、祖父の死を知らされなかった。介護すること、看取することもなく、最期の別れすら云わな

【参考文献】

(一) 中川雄一郎「産業および節約組合法の成立と産業パートナーシップ」、『協同の発見』2013 (協同総合研究所、二〇一三年九月)

告知

白十字の会・定期読書会 今後の方針について

2017 年 2 月に開始した白十字の会・定期読書会では、キリスト教社会主義、ヘーゲル左派、さらにはキリスト教文学に至るまで、さまざまな著作を取り上げてきました。小さな集まりではありましたが、毎回、参加者と共に議論を深めることができたと自負しています。

さて、このたび、主催者（本会書記長）は、社会福祉の分野に奉職することを目指し、7 月 11 日付で介護職員初任者研修を修了しました。現在、御心に適う職場を与えられるべく、求職に励む日々を送っています。そのような中、今後の奉職状況によっては、定期的な読書会を一ヶ月ごとに開催することが難しくなる可能性もあります。

従いまして、今後の読書会の開催方針につきましては、次号以降、主催者の具体的な奉職活動の進展をふまえ、あらためて告知させていただきます（開催曜日の変更のほか、不定期での開催なども想定されますが、その分、各回の準備を入念に行い、さらなる内容の充実を図ります）。

半年間、白十字の会・定期読書会をお支えいただき、誠にありがとうございました。

【今後の主催者（書記長）の研究発表・講演等】

「※表題未定※」、第 13 回「聖書と内村鑑三に学ぶ会」、2017 年 9 月 17 日
会場：和光大学 ポプリホール鶴川（〒195-0053 東京都町田市能ヶ谷 1 丁目 2-1）

「発題＋分科会 無教会と若者」、無教会全国集会 2017、2017 年 10 月 29 日
会場：山崎製パン企業年金基金会館サンシティ（〒272-0034 千葉県市川市市川 1 丁目 3-14）

主催：白十字キリスト教社会主義研究会